

# 蓮田地区モールド生産ラインの再構築

## 1 はじめに

東光高岳では、エポキシモールド変成器の生産を手掛けて40年以上の歴史をもち、時代のニーズに対応して高性能、高品質の製品をお客さまに提供してきた。

## 2 背景

蓮田地区にあるモールド生産ラインは、生産開始からさまざまな注型装置や検査装置などの設備の導入に伴い生産ラインの構築を行ってきたが、建屋の耐震性、アスベストの問題や設備の老朽化に伴い、2015年度から工場建屋を移転し、新たな生産ラインの構築を進めている。

## 3 生産ラインのコンセプト

新しいモールド生産ラインのコンセプトは次のとおりである。

### ●コンパクトライン

→生産性向上を目的とし、→部材搬入～注型～組立～検査～梱包までを品種別にワンストップで効率よくかつ、コンパクトに配置したラインであり、拡張性や負荷変動にも柔軟に対応可能

### ●作業環境改善

→注型炉や硬化炉などの熱源工程とそのほかの工程の作業室を分けし、室内温度上昇を抑える  
→工場照度を上げる

### ●立会い者通路の確保

→立会い者の案内経路にも配慮した工場通路の確保

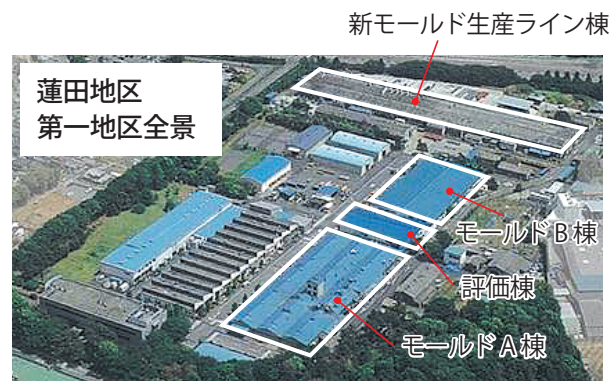
### ●FEMS (Factory Energy Management system) 導入

→エネルギーの見える化、省エネ化を指向したFEMSを導入予定

## 4 生産ラインの構築状況

現状のモールドA棟、B棟ならびに出荷検査を行っている評価棟からなるラインおよび設備は、2017年9月には新モールド生産ライン棟への集約による再構築が完了する予定である。なお、製品の生産には影響しないよう、設備の更新、移設は段階的に実施する。

すでに一部のラインは先行して稼働しており、PMT(地上設置用変圧器)の部品生産などを開始している。



モールド工場建屋



新型注型装置